

# 平成29年度 神奈川中学校 学校評価報告

平成30年3月7日  
横浜市立神奈川中学校  
校長 長谷川 真介

この文書は、自己評価結果について、学校関係者との会議後、関係者からの助言指導を受けて作成した学校評価報告書です。今年度の生徒・保護者による学校評価アンケートの集計結果の分析と、それに基づく今後に向けての方策や方向性を報告いたします。

## 組織 (1) 学校評価委員会 ※教育課程委員会が兼務

(校長・副校長・教務主任・生徒指導専任・学年主任・指導部長・特別支援コーディネーター)

## (2) 学校関係者評価委員会委員名簿 (敬称略) ※『神奈川中学校 学校づくり懇話会』が兼務

- 白幡連合町内会長 中込 弘      ○大口・七鳥連合町内会長 志村昌佐      ○松見連合町内副会長 山根 誠  
○仲手原連合町内会長 斉藤真幾男      ○神奈川中学校PTA会長 中間妙子      ○神奈川中学校後援会 堀江芳雄  
○職業体験学習青年ボランティアの会代表 茂木 茂      ○学校・地域コーディネーター 松浦慶子  
○神奈川区補導員 土肥のり子      ○神奈川保護司会長 山本和義      ○神奈川中学校コミュニティハウス館長 佐久間千春

アンケートに提示された質問項目は、概ね次の内容に関するものです。

- 学校生活の充実度      ○外部の力の活用      ○教職員の指導      ○道徳・人権教育  
○キャリア教育      ○集団活動      ○健康安全      ○防犯・防災      ○施設・環境  
○部活動・学校行事      ○情報公開      ○学習指導

## 【1学年】

### (1) アンケートの集計から

「充実している」と回答した割合は、生徒・保護者ともに85%を超えていることがわかりました。また、その他の質問においても、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒・保護者は、概ね7割を超え、日頃からの職員の教育活動に、ある程度ポジティブな評価をいただいたと受け止めています。しかし、保護者質問3・8・13・17、生徒質問3・9・13においては、「不十分」と感じている評価が、他に比べて高いことがわかり、改善していく必要性を感じています。

保護者質問17「学習の理解度」においては、小学校からの積み重ねである基礎基本が身に付いていないことや、学習内容が難しくなったことによる乗り遅れが出てきていることがわかります。生徒質問9「生徒会活動」「学校行事」においては、27%の生徒が自分の取組姿勢において不十分と評価しています。集団活動が苦手な生徒がいると同時に、リーダーの不足が関係しているのではないかと考えます。また、リーダー的資質を持っていても、そこに価値を見出さない生徒が多いのも現状です。生徒・保護者質問3「学校生活で大切にされている」に対して、保護者「あまりそう思わない」23%、生徒「わからない」28%と高く、生徒一人ひとりが大切だと感じられる教育活動をより一層充実させていく必要があると感じました。

### (2) 今後に向けて

学習面では、職員の授業力向上を目指すとともに、学級学習の日を運用して、各教科の補習の時間を確保することで、生徒の困り感に寄り添っていきたくと考えています。また、校外学習実行委員や専門総務委員会、学級組織の係活動を通して、リーダーシップや協調性の育成にも努めていきます。日頃から、生徒理解を図り、声掛けをすること、生徒の主体的な活動を充実させることで、一人ひとりを大切にしたい指導の充実へと結び付けていきたいと思えます。

## 【2学年】

### (1) アンケートの集計から

アンケート全体を見渡すと、「あまりそう思わない」・「そう思わない」と解答した保護者の割合が高い傾向です。特に質問2、3、17、18では、25%を超える厳しいご意見をいただきました。9教科の範疇だけでなく、学校生活全般を通して自己肯定・有用感、人権問題、生活上のマナー遵守などの声かけ指導を行っておりますが、さらに一人ひとりの生徒に対し、丁寧で公平な関わりを模索していきます。特に学習に関係する質問17、18、19を見ると「そう思わない」と感じる保護者が大半を占めています。各教科、生徒が理解を深めていくための様々な取組を行っていますが、この活動とご家庭との連携についても一層の工夫をまいります。現在の取組では、学級学習の日(約月二回)で教科別の補習・教科別の学習相談(年に二回実施、ですが事実上は随時受付)・昼休みを使った補習の実績があります。このような取組によって学習習慣が改善され、来たる進路選択が無理のない、最適な結果とするために、学習に対する不安を少しでも解消して努力をしていきます。また質問13は、担任・各教科の担当との信頼関係やコミュニケーションについて懸念される数値が高くなりました。毎日の学習活動、行事、学校生活全体を通し隔々まで目と意識が届くよう、さらに相互理解を深める具体的な指導取組を行います。

### (2) 今後に向けて

学校と家庭との情報循環をさらに活性化する工夫が必要であると感じます。学校での活動に対する家庭への説明や情報の不足などによって、様々な行き違いや誤解等を避けるために、学校側の丁寧・反復的な取組が肝心となってきます。慢心に対し常に危機感を持って相手の立場を慮った対応を目指します。この度の評価結果を職員全体で共有し、

すべては一人ひとりの生徒が自立し社会参加できるための教育活動につなげるため、謙虚に受け止め、改善策を模索してまいります。

### 【3学年】

#### (1) アンケートの集計から

生徒・保護者ともに、否定的な意見または「わからない」の回答が比較的少ないのは、3年間の学校生活で築いた関係の中で、ある程度のご理解をいただけている成果とありがたく受け止めています。その中であって気になったのが、保護者質問18「教員はわかりやすい授業を行っている」と生徒質問3「学校生活で自分は大切にされている」に対して「わからない」の回答数が20%を超えていたことです。保護者18については、生徒の授業評価で「概ね理解できわかりやすい」との回答が大半を占めていることを考えると、保護者が授業を参観する機会が少ないことや、家庭で授業が話題にならないことが一因かと考えられます。

生徒3については、質問が抽象的で何を問われているかわからないとの意見がありました。質問の仕方を検討するとともに、生徒一人ひとりが大切にされている実感を持てる教育活動をより充実させていく必要性を感じます。その他、生徒2「小学校・地域との交流」9「学校活動・行事への取組」について、不十分と感じている回答がやや多く、特に、「小学校・地域との交流」は48%に上っています。部活動や職業体験がない3年生にとって、地域の方や小学生との交流は確かに少なくなっています。9「学校活動・行事への取組」は、保護者回答からも「行事への満足度」は高いことがうかがわれるのですが、質問に盛り込まれた内容が多すぎたため、すべてにおいて十分と回答できなかったことが考えられます。保護者においては、19「学習評価」へ「不十分」と感じている回答がやや目立ちました。学校生活や行事に対する充実感については高い評価となっており、学校生活全般に概ね満足度が高いことが読み取れます。

#### (2) 今後に向けて

「わからない」や「不十分」と感じる回答の中には、説明や情報の不足に起因するものもあるようです。特に、3年生という進路が差し迫った中で、進路指導や、学習評価については、生徒保護者共通の関心事であり、生徒だけでなく、保護者の方々に対しても、より丁寧な説明や対応を心がけることが肝要と考えます。

評価結果を真摯に受け止め、改善を図るとともに、生徒たちが主体的に取り組む活動を充実させることで、生徒たちのさらなる成長を目指していききたいと思います。

### 【全校】

#### (1) アンケートの集計から

生徒・保護者ともに質問11・12の「学校環境」、「施設設備」や質問15・16の「学校行事」や「部活動」について比較的肯定的に捉えている人が多いため、質問14の「情報」はよく見ている様子が伺え、質問1の「充実した学校生活を送ることができている。」と肯定的な割合が高くなっているのではないかと推察できます。一方、生徒の質問13「先生に話したり、悩み事の相談」や生徒・保護者の質問3の「一人ひとりを大切にされた教育」について、約半数の割合で、わからないや否定的な思いで捉えられたりしていることが気になります。また、保護者の質問17・18・19で、生徒の「学習理解」「わかりやすい授業」「適切な評価」について比較的否定的に捉えている人が四割近くいることから、改善を図る必要が感じられます。さらに、保護者の質問8で「適切な進路指導や情報提供」について三割強の人がわからないや否定的に捉えているため、指導や情報提供に工夫が必要です。生徒の質問で否定的な捉えが一番多かったのが、質問2の「小学校や地域との交流」です。校内の教育活動の中で、小学校や地域との交流の場は、小中交流会や職業体験学習など限定されてしまっているため、不十分さを実感しているのだと思われます。

全体を通して、生徒・保護者ともに全ての質問に対して少ないところで六割、多くは七割から八割の肯定的な捉えとなっているため、学校評価は概ね良好と解釈できますが、教師と生徒の関係性や授業に関する点など、否定的に捉えられている部分をいかに工夫・改善し、生徒・保護者の思いに添えていけるかが肝要です。

#### (2) 今後に向けて

「一人ひとりを大切にされた教育」は、学校教育の根幹です。今後も授業の中ではもちろん、学級や学年、特別活動や部活動など、あらゆる場面において教師が意識して取り組んでいきたいものです。そのために、生徒の主体的な学習や活動をきめ細かく支援していくにあたって、生徒とかかわれる時間や機会を工夫して捻出していくとともに、日頃からあらゆる機会を捉えて、教師から積極的に挨拶や声かけを通してコミュニケーションを取るなど、生徒に寄り添う姿勢を示し、教師と生徒相互の信頼関係を深めていきます。また保護者に我が子が大切にされていると感じてもらうために、教師が積極的に保護者とかかわり、生徒の話題を軸にしたコミュニケーションを充実させて、教師と保護者相互の信頼関係も深めていきます。「わかりやすい授業」を推進するために、個々の教師が教材研究や指導の工夫を研究することに加え、授業研究の研修会を実施し、互いに学びあうことで全体の授業力アップを図っていきます。そして、9年間で子どもを育てるという意識をもって、小中連携をさらに深めていきます。また、学習評価にかかわる研修会を実施し、全教師で評価基準等の確認や評価資料の工夫を行い、共通理解をもって適切な評価につなげていきます。進路指導では、3年間を見通したキャリア教育を推進し、段階に応じた指導に結びつけていきます。進路選択に向けては、生徒・保護者のニーズを的確に捉え、正確な情報提供を着実にを行うとともに、生徒・保護者に対して丁寧な説明と迅速な対応を図り、安心して進路に臨めるようにします。その他、全体として学校評価を真摯に受け止め、課題に対する改善を図りながらよりよい学校づくりに努めていきます。